様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月２１日現在

機関番号：10101
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：21592741
研究課題名（和文）がん患者の在宅療養に向けた看護者間のネットワークシステムの構築
研究課題名（英文）　Construction of the network system among nurses in hospital supporting cancer patients who discharge to home.
研究代表者
鷲見　尚己（SUMI NAOMI）
北海道大学・大学院保健科学研究院・准教授
研究者番号：30372254

研究成果の概要（和文）：さまざまな局面にあるがん患者が望む療養生活支援のために、病院施設内の看護職とともにアクションリサーチ法を用いて、現状分析及び新しいネットワークシステムの検討を行った。患者が望む療養生活を支援するためには、看護者間の連携においては、協働カンファレンスの開催、看護記録システムの標準化、外来および外来化学療法における専門的ケア、看護実践能力向上を目指した学習会の充実が課題であることが明らかになり、その具体的な取り組みの必要性が示された。

研究成果の概要（英文）：In order to support cancer patients are to various stage of cancer survivors they want, using the method in action research with the nurses in a hospital, we examined the current and new network and system for cancer patients. In order to support the life and medical treatment of cancer patients in various stages, nurses need multidisciplinary conferences to collaborate with other wards nurses. Then, they need new standardization of the nursing recording system, and the opportunity of learning the professional knowledge. Moreover, nurses must consider of supports for outpatients with chemotherapy to improve quality of care. These results have shown the essential clinical practices to care for cancer patients.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：看護学
科研費の分科・細目：臨床看護・がん看護
キーワード：がん看護・看護協働・連携・在宅移行

１．研究開始当初の背景

現在、がん治療方法の新しい指針や現在の保健医療政策を背景に、入院治療から外来化学療法をはじめとする外来治療へのシフトが進み、外来通院中で患者自身が今後の治療や療養方針を決定することも多い。

外来化学療法の時期は、比較的身体状態は安定している。しかし、病状の進行、悪化に伴う通院の限界や入院治療の必要性などにより療養の場が変化することになり、対象者にとって今後の治療方針の選択や症状の自己管理に向けた生活支援が重要になる。

また、入院した対象者に対しては、治療の安全な遂行とともにセルフケア支援を行うと同時に、今後の療養の場の検討に向け、がんの症状コントロールや医療管理支援に関して病棟看護師、緩和ケアチーム、退院支援部署の間でさまざまな調整が必要となる。

２．研究の目的

本研究では、がん患者の在宅療養に向けた看護者間の協働によるネットワークシステムの構築を目指すものである。

これは、がんの診断から治療期、さらには終末期を通じてかかわりを持つ外来治療部門、緩和ケアチーム、病棟、退院支援部門の部署において、さまざまな局面に対峙する対象者の意思決定を支えながら対象者の望む生活を支援するための看護提供システムである。患者が自分自身の療養について見通しを持ち主体的な生活や行動をサポートするための“切れ目のないケア”を提供”することを目的としており、がん患者支援の新しい方略となると考える。

３．研究の方法

（１）現状分析

①患者ニーズ調査：入院および外来通院中のがん患者 29 名に対し面接調査を実施した。

②看護師の連携に対するヒアリング調査：看護師 14 名に対してネットワーク構築に重要な“連携”に関する面接調査を実施した。

（２）アクションリサーチ法による、看護職者（13 名）と研究者の協働研究を実施した。

①運営方法としては、月 1 回の定例ミーティングを行い以下の内容について検討した。なお、定例ミーティング以外にも、各メンバーと研究者によるワーキンググループの活を実施した。

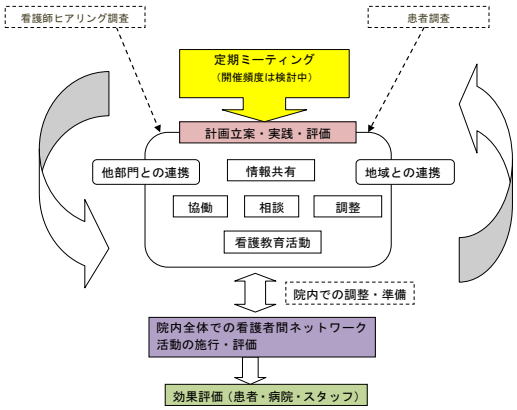
②定例ミーティングでは、以下の点について検討した。

a．現状での課題を見出す

b．課題への実践的活動方法の検討

c．今後への提案

（活動の流れ図は以下を参照。）



（３）「外来看護」に関する調査

①外来化学療法を受ける患者の実態調査～初回治療時の情報ニーズに関する調査
②がん診療拠点病院における外来看護師の他職種との連携に関する調査

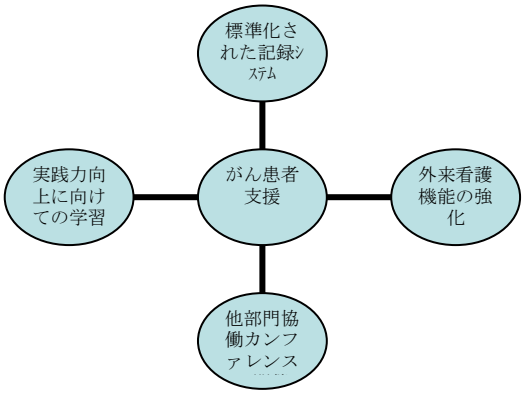
４．研究成果
（１）がん患者および看護職者の現状分析
①患者ニーズ調査：がん患者を入院患者と外来患者に分け、また病気の時期を３つに分けてニーズを調査した結果、以下のニーズが明らかとなった。

	診断期	維持再発期	終末期
入院	・精神的に混乱した 治療への期待と不安 家族不安	・再発への不安 ・経済問題	・医師への信頼 ・経済問題
外来	治療への期待と不安 医師への信頼　など	・再発への不安 ・日常生活と治療とのバランス ・経済問題	・経済問題 ・死への不安 ・家族の不安

②　看護師の“連携”に関する認識について
看護師は、「他部門の看護師との連携の必要性を認識している」ものの、「医師との調整の困難さ」、「連携のための体制や院内での連携ｼｽﾃﾑが十分ではない」ことなどを感じていた。今後は、この課題に対する、具体的な解決策を検討する必要があると言える。

（２）アクションリサーチ法による、臨床での課題とネットワークシステムの構築への取り組み
①定例ミーティングにおいて、院内における問題点・課題の明確化をおこなった。
参加者である看護者自らの日々の活動を振り返り、現在の課題と問題点を焦点化し、具体的な活動の方向性を決定する。

＜以下は、参加者のディスカッションで検討された問題点・課題＞
・病棟と外来の連携がうまくできていない。
・地域医療連携福祉センターへの依頼が後手に回る。
・病棟看護師の地域資源等に関する知識の不足がある。
・退院支援の開始が遅くなる。治療方針が決まる前に患者の意向が確認できるとよい。
・退院支援への意識は高まっているが、地域医療連携福祉センターへ依頼すること終了し、自らが支援する意識が薄い。
・BSC へ移行する患者に関しての地域医療連携服センターと外来との連携が必要。
・リーダーがケア調整の中心となっており、リーダーが変わることで、患者とのかかわりが継続できない場合もある。



定例ミーティングにおいて、今後取り組むべきワーキンググループを上記の４点に絞りこみ、各活動を実践的に行った。

②　ワーキンググループによる活動結果および今後への提言

	活動結果および今後への提言
記録ｼｽﾃﾑ	緩和ケア、地域連携、外来化学療法室などの利用・介入がある患者を把握する方法という視点からも、新しい情報管理のあり方として今後の検討が必要。

他部門参加合同カンファレンス	他部門が参加するカンファレンスは、多面的にケアを検討することができ有用である。
外来看護	患者のセルフケア支援のため、医師との連携方法や、看護師が服薬指導・セルフケア支援のためのケアプログラムを検討する必要がある。
学習	学習会のみならず、実際に退院支援の実践を通じて、看護師自身が自信を持って、患者の望む療養生活支援ができるよう、看護師の退院支援、療養の場の移行に関する能力の向上にもつながると考える。

③ 今後への課題と提言

今回の成果から、ネットワークに必要な要素を再検討し、「新たな協働」において、患者のニーズ分析に基づいた新たな＜課題＞を見出し、システムの試行及び評価につなげる必要性が示唆された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

佐藤三穂, 鷲見尚己, 浅井香菜子, 外来化学療法を受ける患者の精神的問題とその関連要因の検討, 日本がん看護学会誌, 24（1）, 52-60, 2010, 査読あり

〔学会発表〕（計４件）

① 野村杏子,北本千尋,山谷奈穂子,鷲見尚己：外来化学療法に初めて移行するがん患者の情報ニーズの現状と精神的健康との関連（第 26 回日本がん看護学会,2012.2,島根

②Naomi Sumi, Miho Sato, Yoko Kudo, Ayako Takahashi, Kana Matsushima, Sena Nomoto: Cancer care in an outpatient settings: Multidisciplinary team conference to encourage collaborative care of cancer patients in Japan. 8th International Nursing Conference, 2011.10, Korea

③Naomi Sumi, Michiko Aoyanagi, Kayo Mizobe, Miho Sato: Issues Surround Collaborative Practice Identified by Cancer Care Nurses in a Hospital Setting in Japan. 8th International Nursing Conference, 2011.10, Korea

④工藤陽子,高橋絢子,松島加奈,野本世菜,佐藤三穂,鷲見尚己：通院がん患者の療養支援における外来看護師と多職種の連携に関する研究, 第 26 回日本がん看護学会学術集会,2011.2,神戸

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
鷲見 尚己（SUMI NAOMI）
北海道大学・大学院保健科学研究院・准教授
研究者番号：30372254

(2)研究分担者

青柳　道子（AOYANAGI　MICHIKO）
北海道大学・大学院保健科学研究院・講師
研究者番号：30405675

溝部　佳代（MIZOBE KAYO）
北海道大学・大学院保健科学研究院・講師
研究者番号：70322857

佐藤　三穂（SATO MIHO）
北海道大学・大学院保健科学研究院・助教
研究者番号：00431312